



 Data	
監督:	ガス・ヴァン・サント
脚本:	ダスティン・ランズ・ブラック
出演:	ショーン・ベン/エミール・ハーシュ/ジョシュ・ブローリン/ディエゴ・ルナ/ジェームズ・フランコ/アリソン・ビル/ヴィクター・ガーバー

👁️👁️ みどころ

ゲイをカミングアウトして全米初の公職に就いた男ハーヴィー・ミルクの8年間を熱演したショーン・ペンが、ブラッド・ピットら有力候補を抑えて見事アカデミー賞主演男優賞をゲット！さすが自由の国アメリカだ。

『マルコムX』(92年)にも衝撃を受けたが、本作にもビックリ！知識不足をこんな映画から補い、権利のための闘いとは？民主主義とは？をしっかり勉強しなくちゃ！

■□■こりゃ、一体何の映画？■□■

こりゃ、一体何の映画？タイトルだけ見れば、一瞬誰でもそう思うはず。だって『ミルク』だけではどんなジャンルの、何をテーマとした映画なのかサッパリわからないから。原題も『MILK』だが、最近の邦題は『THE DUCHESS』(08年)を『ある公爵夫人の生涯』と、『THE READER』(08年)を『愛を読むひと』としているように、やけに説明的になっているから、その傾向からすれば本作も『ハーヴィー・ミルクの生涯』とでもしそうなもの。

ところでハーヴィー・ミルクって一体誰？彼は1970年代にアメリカのサンフランシスコで同性愛者(ゲイ)のために立ち上がり、市政執行委員(日本の市議会議員のようなもの)として大活躍した人物。そんな映画が、アカデミー賞で主演男優賞と脚本賞を？そういうところが、いかにも自由の国アメリカらしく、またアメリカという国の懐の深さ・・・？

■□■主演男優賞、脚本賞受賞おめでとう！■□■

『ミルク』は第81回アカデミー賞で作品賞・監督賞・主演男優賞・助演男優賞・脚本賞・編集賞・衣装デザイン賞・作曲賞の8部門にノミネートされ、ショーン・ペンが主演男優賞を、ダスティン・ランズ・ブラックが脚本賞を受賞した。

主演男優賞にノミネートされたのは他に、フランク・ランジェラ(『フロスト×ニクソン』)、ブラッド・ピット(『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』)、リチャード・ジェンキンス(『ザ・ビジター』)、ミッキー・ローク(『レスラー』)の4人。私は『ザ・ビジター』と『レスラー』はまだ観ていないうえ、それ以外の3人の中で誰がベストかと言われても、私には判断がつかない。つまり、ショーン・ペン、フランク・ランジェラ、ブラッド・ピットの3人はそれぞれ持ち味を生かしたすばらしい演技をしているとしか言いようがないわけだ。しかし、結果的にショーン・ペンが選ばれたのだから、ここは素直に主演男優賞受賞おめでとう！と言っておこう。

■□■『ミルク』VS『ブローックバック・マウンテン』■□■

しかし、ちょっと待てよ。ゲイをテーマとした映画といえば、アン・リー監督の『ブローックバック・マウンテン』(05年)も2人のカウボーイの同性愛がテーマだった。そしてこれは、アカデミー賞作品賞、主演男優賞、助演男優賞、助演女優賞など最多8部門にノミネートされていたのに、監督賞、脚色賞、作曲賞の3部門しか受賞できなかった。ベネチア国際映画祭では金獅子賞を、ゴールデングローブ賞では作品賞、監督賞などを受賞したのに・・・。

そこで飛び出したのが、アカデミー賞は保守的だからゲイというテーマが受け入れられず、作品賞、主演男優賞、助演男優賞、助演女優賞などを受賞できなかったのではないかと、というアン・リー監督のアカデミー賞批判。そう考えると、前述した自由の国アメリカと、懐の深さは看板倒れ？でも、今回はショーン・ペンが4人の強豪を抑えてしっかりと主演男優賞を受賞したのだから、やっぱりその看板はオーケーでは・・・。

■□■はじめて星5つを！■□■

私がガス・ヴァン・サント監督作品を観て評論したのは、『エレファント』(03年)(『シネマルーム4』221頁参照)、『マラノーチェ』(85年)(『シネマルーム15』297頁参照)、『パラノイドパーク』(07年)(『シネマルーム19』347頁参照)の3本だが、いずれも星3つと評価が低い。もっとも、1990年代の作品であるため、観たけれども評論を書いていない作品が、『マイ・プライベート・アイダホ』(91年)、『誘う女』(95年)、『グッド・ウィル・ハンティング/旅立ち』(97年)の3本で、これらはいずれもすばらしい作品だった。しかしその当時は、これらがガス・ヴァン・サント監督作品だとい

うことを知らないで観ていたから、かなり失礼な見方をしていたわけだ。

しかし、今回の『ミルク』はアカデミー賞8部門にノミネートされたから言うわけではないが、すばらしい作品。したがって、これまで星3つしか与えていない私も、今回のガス・ヴァン・サント監督作品には、はじめて星5つを。

■ ■ 『ミルク』 VS 『マルコムX』 ■ ■

今から約16年半前の1992年夏、何の事前情報もないまま「これは面白そう」と思ってブラリと入って観たのが『マルコムX』(92年)。マルコムXを演じたデンゼル・ワシントンは、第65回アカデミー賞主演男優賞にノミネートされる熱演だった(受賞は『セント・オブ・ウーマン/夢の香り』(92年)のアル・パチーノ)。

この映画を観て感動するとともにショックを受けたのは、黒人解放運動について知っていたのがせいぜいマーティン・ルーサー・キング牧師くらいで、マルコムXのような異色のリーダーがいたことを全然知らなかったこと。今回『ミルク』を観て感じたのはそれと全く同じで、ハーヴィー・ミルクというアメリカではきっと有名な人物を私は何も知らなかった。しかし逆に言えば、16年半前に『マルコムX』を観たことによって、また今回『ミルク』を観たことによって私は多くのことを学ぶことができたことになる。しかも、今回はその評論を書くためにいろいろな視点から頭がフル回転しているし、書くために集めて読んだ資料も多いから、実に多くのことを学べているわけだ。そう考えると、1本の映画から学べるのがいかに多いかを実感！

■ ■ ストーリー展開の始まりは？ ■ ■

本作は、髪とひげを伸ばしニューヨークでヒッピー生活を送るミルクの描写から始まる。そして1972年、ニューヨークで働いていたミルクが20歳年下のゲイの恋人スコット・スミス(ジェームズ・フランコ)と出会い、新しい人生を求めて自由の地サンフランシスコに移り住むところから本格的な物語がスタートする。2人が住むのは、アイルランド系の移民労働者たちが数多く住んでいたコリーカ・ヴァレー地区。60年代後半から同性愛者やヒッピーたちが流入していたこの地域は、やがて「カストロ地区」と呼ばれるようになるらしい。

貯金の底が見えてきた2人はやがてアパートの1階にカメラ店「カストロ・カメラ」を開いたが、これが意外にも周辺の同性愛者やヒッピーたちの人気に。その原因はきっと、ミルクの社交的でユーモアあふれる人柄。なるほど既にこの頃から、彼が政治の世界に打って出て、ゲイたちのために活動する資質が見えていたわけだ。

■ ■ 1972年までのハーヴィー・ミルクは？ ■ ■

このように、本作は1970年当時のミルクの描写からスタートし、1978年に市政

執行委員として同僚だったダン・ホワイト（ジョシュ・ブローリン）の銃弾に倒れるまでの8年間を描くが、ウィキペディアを調べると1930年に生まれたミルクの1972年までの興味深い青年時代が浮かびあがってくる。

ミルクはニューヨーク州で生まれ、大学卒業後海軍に入隊した後、名誉除隊したらしい。自分がゲイだということにいつ気づいたのか知らないが、彼は軍隊で数多く行われた同性愛者粛清の犠牲者となったと、語っているようだ。また、彼はユダヤ人だったため仕事を見つけたり長く続けるのは難しかったらしく、海軍での勤務の後テキサス州ダラスでしばらく暮らしたが、結局ニューヨークに転居してウォール街で働いたとのこと。また、トム・オホーガンと共にプロデューサーとして、『レニー』やミュージカル『ジーザス・クライスト・スーパースター』を含む多くの演劇に関係した、とのことだ。

■□■「連戦連敗」の覚悟を持ってる？■□■

私は弁護士として都市問題をライフワークとして取り組んでいる。そのため過去モノレール訴訟、阿倍野再開発訴訟、久居再開発調停、新宿再開発訴訟、横浜上大岡再開発訴訟、津山再開発訴訟などたくさんの事件に取り組んできた。この手の行政訴訟は刑事事件での無罪判決獲得の可能性が低いと同じように勝訴率がきわめて低く、「連戦連敗」を覚悟しての闘いとなる。

そこで興味深いのが、今や「世界の安藤」となった建築家安藤忠雄氏の著書『連戦連敗』（2001年・東京大学出版会）。これはコンペで入賞できる可能性はもともときわめて低いから、連戦連敗の覚悟で取り組むべきこと（闘うこと）を強調したもの。連戦連敗の見込みが強いのに、なぜ闘うの？それはこの本から、あるいは私の闘いの系譜から感じ取ってほしい。

そんな目でみると、「カストロ地区」で頭角を表しはじめ、「カストロ・ストリートの市長」と呼ばれるようになったミルクが、ゲイの権利の確立を求めて市政執行委員に立候補しようと考えたのは立派なもの。そしてこの映画では、勝つことだけが目的ではなく、闘うこと自体に意義がある、と語っている彼の姿が印象的。まさにミルクは私や多分安藤忠雄氏と同じように、連戦連敗を覚悟のうえで日々闘っているわけだ。

彼の闘いは1973年（市政執行委員）、1975年（市政執行委員）、1976年（州議会下院）と3連敗だったが、77年の市政執行委員選挙で初当選。もっとも、この当選はそれまでの大選挙区制から小選挙区制に変わったことが大きく寄与したが、当然運も成功のうちだ。喜びに湧くミルクとそのスタッフたちだが、さてミルクはこれから具体的に何を？日本では当選するとたちまちその上にあぐらをかく議員が多いが、アメリカでは当選後選挙民のために具体的な成果を挙げなければたちまち次回は落選？

■□■ 恋人は？同志は？協力者は？ ■□■

アメリカにおけるバラク・オバマVSヒラリー・クリントンの民主党内大統領予備選、そしてバラク・オバマVSジョン・マケインの大統領選挙本選の盛り上がりはすごかったが、この映画を観ていると、サンフランシスコ市の市政執行委員選挙の盛り上がりもすごい。つまり、アメリカではそれだけ民主主義が根付いており、選挙は自分たちの代表を選ぶ大切な権利だということを多くの国民が自覚しているわけだ。

しかし、もちろん誰もが政治活動に興味を持っているわけではないから、ミルクへの支持が広がり、その存在が次第に公的なものになり始めると、失うものが出るのも仕方ない。ミルクにとって、その最大のものは恋人スコットの喪失。スコットの言い分は、「政治活動はもういいだろう。早く俺のもとに戻ってきてくれ」というものだ。4度目の立候補はスコットとの間で交わした「もう出ない」との約束を破るものだったから、ミルクにとってその挑戦はスコット喪失との引き換えだったわけだ。

他方、こんな闘いの連続の中で新たに参加してきた同志・スタッフもたくさんいた。それは第1に、ノンポリから急速にゲイ活動家に成長したクリーブ・ジョーンズ(エミール・ハーシュ)、第2に新しいゲイの恋人ジャック・リラ(ディエゴ・ルナ)、第3に強力な選挙参謀となったレズビアン女性アン・クロネンバーグ(アリソン・ビル)たち。彼らの個性的なキャラとイキイキとした活動のサマは是非あなた自身の目で。また、2度目の挑戦の際にミルクが応援し、州上院議員からサンフランシスコ市長に当選したジョージ・モスコニ(ヴィクター・ガーバー)がゲイに好意的だったのも、ミルクにとってラッキー。そんな同志・スタッフや協力者を得たミルクの最大の闘いとは？

■□■ 「プロポジション6(提案6号)」とは？ ■□■

ミルクの市政執行委員としての活躍ぶりは是非あなたが目で確認していただきたいが、ミルクにはこの映画のハイライトとなる「プロポジション6」の住民投票に対する闘いが迫っていた。「プロポジション6」とは、カリフォルニア州の州議会議員であるジョン・ブリッグス(デニス・オヘア)が反ゲイ運動の1つとして住民投票にかけようとした条例。その内容は「市内の公立学校から同性愛の教師および同性愛者人権を擁護する職員を排除する」ものだ。その強力な支持者は、元準ミス・アメリカで人気歌手だったアニタ・ブライアント。全米の人気者だけに強敵だ。

ちなみに、東京都日野市の都立七生(ななお)養護学校(現・都立七生特別支援学校)の元教諭らが、都議3人と都・産経新聞社に対して計約3000万円の損害賠償を求めた訴訟について、東京地裁は2009年3月12日、都議3人と都に対して慰謝料計210万円の支払いを命じる判決を言い渡した。

2003年に学校を視察した都議らが性教育を実践していた教諭を非難したことが教育

への「不当な支配」にあたると指摘し、都教育委員が教諭らを厳重注意したことも裁量権の乱用と判断したわけだ。なお、同校の教育内容を批判的に報じた産経新聞に対する訴えは棄却された。

この判決について、3月14日付産経新聞社説は「性教育 過激な内容を正すのは当然」と題して、「問題の性教育は性器のついた人形を使うなど不適切な内容であり、都議らの是正に向けた取り組みは当然の行為だ。これを不当とした判決は極めて疑問である」などと原判決を批判した。これに対して、同日付朝日新聞社説は「創意をつぶす『不当な支配』」と題して「きわめて妥当な判断である。教育に対する政治の介入への大きな警鐘といえる。都議らだけでなく、すべての政治家が教訓とすべきだ」と原判決を支持した。なお、この評論を書いていた時、3月16日付の読売新聞も「性教育判決 過激な授業は放置できない」と題する社説を掲げたが、「だが、都にそこまで教員を保護する義務があったのだろうか。」「しかし、性器の付いた人形の使用まで必要なのか、首をかしげる人は多いのではないか。」と、そのトーンはあまり高くない。「プロポジション6」をめぐるハーヴィー・ミルクVSアニタ・ブライアントの議論は、言ってみればこんな産経新聞と朝日新聞の対立と同じようなもの・・・？

バラク・オバマ大統領の演説術には定評があるが、「プロポジション6」をめぐる討論会でのミルクの弁論術や「プロポジション6」反対のデモ行進に向けての演説術をみていると、ミルクもオバマ並み？そんなミルクの奮闘の中で1978年11月7日に開票された「プロポジション6」に対する住民投票の結果は？

■市会議員日米比較、条例制定日米比較■

本作のプレスシートでは、市政執行委員という言葉を使っているが、これは日本の市会議員と同じようなもの？日本では市町村合併が強力に進められた結果、2009年3月31日現在1778の市町村（783市、803町、192村）になっている。またインターネット情報によれば2007年12月31日現在市町村会議員の総数は約3万6千名だが、さてアメリカでは？

インターネット情報によると、アメリカでは教育委員、法務局長、郡警察署長など多数の役職者が公選で選ばれ、その数は50万人に迫る一方、市会議員の数は少なく通常4、5名、大都市でも10名前後らしい。ちなみに、人口732万人のニューヨーク市で51名、348万人のロサンゼルス市で15名、72万人のサンフランシスコ市で11名という具合だ。また市議会の運営の方法も、日米では全然違う。

また日本では、「法令の範囲内で条例を制定することができる」（日本国憲法第94条）が、さてアメリカでは？アメリカ合衆国は連邦制度の国だから連邦法と州法があり州法は連邦法に反することはできない。また連邦議会の立法権は合衆国憲法に列举された事項に限られており、それ以外の権限は州法に委ねられている。そんな制度の下、アメリカの地

方自治の制度は多様で、日本ほど単純ではない。また、条例も議会でも可決するものの他、住民投票で決められるものも多い。州や市単位の住民投票は1970年代以降さかんに行われているうえ、単なる賛否を問うだけではなく、住民からの提案を直接投票によって法制化する「プロポジション制」（直接提案制）が1988年来導入されており、現在州と市を合わせて約20の自治体にこの制度があるらしい。

市政執行委員に当選したミルクの活躍の意義をきちんと理解するためには、このような市会議員の役割について、また地方自治体や条例制定のあり方について、きちんと日米比較の勉強をすることが不可欠だ。

■□■キーパーソンはダン・ホワイト■□■

1977年11月の選挙でミルクと共に新人で当選したのが、元消防士のダン・ホワイト。就任後、ミルクが高齢者福祉に関する条例や犬のフンの始末をしない罰金を課する条例、さらには同性愛者差別による解雇を禁止するゲイ人権保護条例等を次々と可決・成立させたのに対し、顕著な功績を挙げられないホワイトはイライラ気味。もちろん政治の世界だから駆け引きもいろいろあるようだが、そこでも完全にミルクの方が上手・・・？

そんな中、次第にホワイトの目つきや言動が怪しくなっていくから、こりゃヤバイ…。そして1978年11月、ホワイトは突然市政執行委員を辞任。モスコニー市長はそれを承認したが、何とその直後ホワイトは辞任を撤回すると言い始めたから、こりゃ一体ナニ？ そんな混乱の中、ホワイトが取った行動とは・・・？

■□■「ホワイト・ナイトの暴動」とは？■□■

能と並ぶ芸能である幸若舞（こうわかまい）の『敦盛』の一節、「人間50年、下天のうちをくらぶれば、夢幻の如くなり。一度生を享け滅せぬもののあるべきか」の歌を好んでいた織田信長が、明智光秀の謀叛によって本能寺で死亡したのは天正10（1582）年夏で、信長は享年49歳（満48歳）。それと同じように、市庁舎の中でダン・ホワイトの銃弾に倒れたモスコニー市長は49歳、そしてミルクは48歳だった。

ここで興味深いのがホワイトの判決。陪審制のアメリカでは、1994年に発生したO.J. シンプソンによる妻殺害事件について、1995年10月3日無罪の評決が公表されたが、それは陪審員のほとんどが黒人だったためとされている（逆に、2007年9月に起きたラスベガスのカジノにおける強盗事件でシンプソンが犯人だとされた罪について、2008年10月3日有罪の判決が下されたが、これは陪審員が全員白人だったためとされている）。それと同じように、白人カトリック層で占められた陪審員たちは、弁護人の心神耗弱の主張を容れ、ホワイトを第一級殺人ではなく、より罪の軽い故殺罪とし禁固7年の刑を言渡したとのこと。その結果サンフランシスコ市で発生したのが1979年の「ホ

「ホワイト・ナイトの暴動」だが、さてそれはどんなもの？また、それがもたらしたものは？
本作の鑑賞を機会に、これらの事実経過についても是非勉強したいものだ。

■□■板垣死すとも・・・、ミルク死すとも・・・■□■

「板垣死すとも自由は死せず」は有名な言葉。これは、ミルクが死亡した1978年の約100年前たる1882年4月6日、岐阜で演説を終えた自由党党首板垣退助が相原尚義（あいはらなおぶみ）に襲撃され短刀で胸などを刺された岐阜事件の時に叫んだとされている言葉。ミルク暗殺を契機にこの岐阜事件を調べてみると、岐阜事件によって板垣退助は死亡したわけではない。また、「板垣死すとも自由は死せず」という言葉を板垣退助が襲撃を受けた時実際に叫んだかどうかは不明らしい。しかし、何ともカッコいい言葉。

そんな「板垣的視点」(?)で考えてみると、「ミルク死すともゲイ運動は死せず」は、「ホワイト・ナイトの暴動」を見ても明らかだ。またそれ以上にミルクがうれしかったのは、出会った頃は政治にもゲイの人権運動にも何の興味もなかった若者クリーブが、立派な活動家として育ち、今やミルクの後継者的役割を果たすまでになったことだろう。そして、極めつけその1は、1999年6月、ミルクが「タイム誌が選ぶ20世紀の英雄・象徴的人物100人」の1人に選出されたこと。その2は、2008年5月、カリフォルニア州議会下院がミルクの誕生日である5月22日を公的に「ハーヴィー・ミルク・デイ」と規定する法案を可決したこと。まさに、「ミルク死すともゲイ運動は死せず」ということだ。

■□■経済危機はゲイ運動にも・・・■□■

私は本来ゲイやレズビアン運動には何の興味もないが、こんな映画を観ると新聞記事の読み方も変わるものだ。2009年2月14日にイタリア・ローマで行われたG7（先進7カ国財務相・中央銀行総裁会議）における「もうろう会見」で世界に醜態をさらした中川昭一前財務大臣に代わって、2009年3月14日に英国で開催された世界20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議に出席した与謝野馨財務・金融・経済財政担当相は、財政出動への協調に大きな存在感を発揮したが、世界の経済危機はどうもゲイ運動にまで及んでいるようだ。

すなわち、2009年3月12日付朝日新聞夕刊で発見したのが、「ゲイ運動の先駆 閉店」との見出し。つまり、ニューヨークのグリニッチビレッジにある小さな本屋が、昨年から経済危機によって今月静かに店を閉じる、という記事だ。店の名前は「オスカー・ワイルド書店」。これは、19世紀のイギリスの作家、オスカー・ワイルドの著作をはじめ、同性愛者のための文学作品やノンフィクションを集めた米国最初の書店。つまりこの店は、ゲイ・ムーブメント（運動）の先駆けとなり、同性愛者の権利を守るとりでとなった店なのだ。

ちなみにこの記事は、私が学生時代に読んだJ・D・サリンジャーの『キャッチャー・

イン・ザ・ライ(ライ麦畑でつかまえて)』(1951年・白水社)における、「まるで、外では雨が降っています、というような匂いがした。たとえ実際には降っていないくてもね。で、この世界中で唯一、僕らの今いる場所だけが、からっと乾いて居心地がよくてなごめる場所なんだ、みたいな。僕はその博物館がなにせ好きなんだ。」の文章を引用していたが・・・。

2009(平成21)年3月16日記

「板垣死すとも自由は死せず!」板垣退助はそう叫んだそうだが、一九七八年に志半ばの四十八歳で凶弾に倒れた実在のゲイ人権活動家ハーウィー・ミルクが残したもの。米アカデミー主演

男優賞はショーン・ペンがゲット! 保守的と言われるアカデミー委員会も大変化? 米カリフォルニア州サンフランシスコ市の同性愛者社会で「カストロ通りの市長」と呼ばれたミ

ルクは、四度目挑戦の一九七七年、同市議に初当選。現在日本では同性婚は法的に不可能だが、カナダでは合法。米国でも同州が〇八年に二番目の合法州に。また九〇年代半ば以降LGBT(レズ

ビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー)が一般用語となり徐々に市民権を獲得したが、七〇年代の米国では厳しい差別や偏見が。そんな時代状況の中、ゲイをカミングアウトして当選した初の公職者がミルクだ。

銃弾に倒れたゲイ活動家の想いは?



75

「ミルク」

(今日から梅田ブルク7ほかで公開)



©2008 FOCUS FEATURES, LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

援する条例だが、ミルクはその反対運動の先頭に。オバマの「Yes we can(我々はやれる)」も熱かったが、ミルクの「若者たちに希望を与え続けなければならない」この演説も熱い。さて、住民投票の行方は?

機能不全に陥っている現代日本の政治と違い、強力なスタッフの支援を受けた彼の活躍はゲイの人権保護条例可決など華々しいが、政治への深入りや、政治への深入り

坂本龍馬は京都見廻組と見られる一団に暗殺されるが、ミルク殺害犯は同僚市議のダン・ホワイ

トで、市庁舎内で市長とともに銃撃された。わず

か禁固七年の判決は、後に市民暴動を呼び、五年

足らずで出所したホワイ

は翌年自殺を遂げた。

タイム誌は九九年ミルクを「二〇世紀の英雄・象徴的人物百人」の一人

に選出したから、彼の死が無駄死ではなかったことを今しつかり確認したい。